

研究主題

世界の中の日本人としてのアイデンティティを はぐくむ教育に関する研究

(実践編)

《抄 録》

東京都教育委員会は、教育目標の前文及び基本方針2(7)で、「世界の中の日本人としてのアイデンティティを育てる教育の推進」を求めている。それを受け、今年度の研究は1年次の調査研究を踏まえ、各学校が「世界の中の日本人としてのアイデンティティ」(以下「アイデンティティ」という)をはぐくむための具体的な工夫や手だてを提示し、実践化を図ることをねらいとした。

本研究は、日常の教育活動の中で意図的な機会や場を確保して「アイデンティティ」の醸成を図ることに視点を当てている。そこで、目指す人間像を「日本や世界の歴史や文化・伝統を尊重するとともに、家族や郷土、国を愛し、自信と誇りをもって進んで社会に参画して平和的な国際社会の形成に貢献する人」と設定して、以下の方法で研究を行った。

(1) 小学校と中学校の複数の教科等における、「アイデンティティ」をはぐくむための「工夫や手だて」を取り入れた検証授業の実施

(2) 検証授業の分析と考察、学習指導要領等の目標や内容の分析による「アイデンティティ」をはぐくむための観点の設定と「目指す子ども像」の明確化

(1)、(2)を踏まえ、検証授業を改善し、その有効性を生かして単元の再構成を図り、各学校の実践に資する授業モデル案を作成した。

この研究で明らかにした観点と「目指す子ども像」により、「アイデンティティ」をはぐくむためのねらいが明確になり、具体的な実践の指針が得られると考える。そして、本研究で示した授業モデル案を参考に、各学校において、児童・生徒の実態に合わせた教育活動を推進することで、「アイデンティティ」をはぐくむことが期待できる。

目 次

研究の背景と基本的な考え方	181
1 研究主題設定の理由と研究のねらい	181
2 研究の視点と研究の方法	181
研究の内容	181
1 「アイデンティティ」をはぐくむための観点の設定	181
2 観点と発達段階ごとの「目指す子ども像」の作成	183
3 「アイデンティティ」をはぐくむための授業モデル案の作成と提示	184
4 「アイデンティティ」をはぐくむための授業モデル案について	185
授業モデル案	
1 小学校第3学年国語科 詩を楽しもう	188
2 小学校第4学年社会科 ゴミのしまつと再利用	190
3 小学校第6学年音楽科 自分たちの「ふるさと」を表現しよう	192
4 中学校第1学年道徳 「まつり」を通して人とのつながりを 大切にすゝる気持ちを育てよう	194
5 中学校第2学年特別活動 進路学習 自分を知ろう	196
研究の成果と課題	198
1 研究の成果	198
2 今後の課題	198
参考資料 観点と発達段階ごとの「目指す子ども像」(例)	199

研究の背景と基本的な考え方

1 研究主題設定の理由と研究のねらい

東京都教育委員会は、教育目標前文に「我が国の歴史や文化を尊重し国際社会に生きる日本人の育成」を示すとともに、基本方針2(7)において、「日本や世界の文化・伝統に触れる機会の充実を図り、郷土に対する愛着や誇りをはぐくむとともに、多様な文化に対する理解を深め、世界の中の日本人としてのアイデンティティを育てる教育の推進」を求めている。

それを受け、本研究では、昨年度の調査研究を踏まえ、各学校が日常の教育活動の中で「世界の中の日本人としてのアイデンティティ」(以下「アイデンティティ」という)をはぐくむための具体的な工夫や手だてを提示し、実践化を図ることをねらいとした。

2 研究の視点と研究の方法

(1) 研究の視点

本研究では、次のような視点で研究を進めた。

日常の教育活動の中で「アイデンティティ」をはぐくむための工夫や手だての具体化
以下のような視点を基に、「アイデンティティ」をはぐくむための工夫や手だてを、検証授業を通して探っていき、学校の実践に資する複数の授業モデル案を作成することにした。

【視点】日常の教育活動の中に、「世界の中の日本人としてのアイデンティティ」をはぐくむことを意図した機会や場を確保し、児童・生徒の発達段階に応じた具体的な指導の工夫や手だてを継続的に講じることにより、「世界の中の日本人としてのアイデンティティ」の醸成を促していく。

実践化を図るための指導の目標やねらいの明確化

を効果的に実践で生かすため、「目指す人間像」を定め、さらにそれを踏まえた「アイデンティティ」をはぐくむための観点を設定し、指導の目標やねらいを明確にすることを目指した。

【目指す人間像】日本や世界の歴史や文化・伝統を尊重するとともに、家族や郷土、国を愛し、自信と誇りをもって進んで社会に参画して平和的な国際社会の形成に貢献する人。

(2) 研究の方法

小学校と中学校の複数の教科等における、「アイデンティティ」をはぐくむための「工夫や手だて」を取り入れた検証授業の実施

検証授業の分析と考察、学習指導要領等の目標や内容の分析による「アイデンティティ」をはぐくむための観点的設定と「目指す子ども像」の明確化

、を踏まえ、検証授業を改善し、その有効性を生かして単元の再構成を図り、各学校の実践に資する授業モデル案を作成した。

研究の内容

1 「アイデンティティ」をはぐくむための観点的設定

「アイデンティティ」をはぐくむための指導の目標やねらいを明確にするために、「かわり

と帰属意識の広がりに関する観点」として4観点を、また「かかわりと帰属意識の広がりを成立させる要素に関する観点」として4観点を、それぞれ次のように設定した。

かかわりと帰属意識の 広がりに関する観点	自己とのかかわり	1	これらの記号は、後に示す授業モデル案のために用いたものである。
	社会とのかかわり	2	
	文化とのかかわり	3	
	自然や崇高なものとのかかわり	4	
かかわりと帰属意識の 広がりを成立させる要素に関する観点	自己表現	1	
	コミュニケーション	2	
	規範（規範意識）	3	
	感性・思考	4	

(1) かかわりと帰属意識の広がりに関する観点について

この観点は、「アイデンティティ」をはぐくむことと関連の強い、かかわりと帰属意識の広がり
に焦点を当てたものである。

「自己とのかかわり」(1)

自己への気付き、自意識、自己の確立、自尊感情、自己肯定感、自己実現など、自己とのか
かわりに関する意識をはぐくむ観点である。

「社会とのかかわり」(2)

「公」への気付き、家族や共同体（学校・地域社会など）への帰属意識や愛着、郷土や国を
愛する心、社会への参画、貢献への意識と態度、日本人（国民）としての意識、国際性の視点、
世界の一員としての意識など、社会性の育成に関する観点である。

「文化とのかかわり」(3)

郷土や日本（自国）の文化と伝統の理解・尊重・継承、郷土や日本（自国）・諸外国の優れた
文化活動や芸術作品への関心や態度の形成など、文化との関係に関する観点である。

「自然や崇高なものとのかかわり」(4)

自然や生命を尊ぶこと、人間の力を超えたものへの畏敬の念などと関係する、社会や文化と
は別の次元でのかかわりについての観点である。

(2) かかわりと帰属意識の広がりを成立させる要素に関する観点について

この観点は、上記の「かかわりと帰属意識の広がりに関する観点」に示した意識や態度等
を支える資質や能力に焦点を当てたものである。

「自己表現」(1)

自己表出、自己の感情表現、自己主張など、感情や情緒、思いなどを態度や行動あるいは様々
な手段やメディアを用いて表現することに関する観点である。

「コミュニケーション」(2)

情報の伝達、人とのつながり、伝え合うことなどに関連する観点であり、「かかわりと帰属意
識の広がり」を媒介する要素である。

「規範（規範意識）」(3)

自己抑制、自律心、相手への適切な配慮、モラル、マナー、ルール、規律、法の遵守など、広い意味での規範や規範意識に関する観点である。

「感性・思考」(4)

「感性・思考」は、感覚、感情、情緒、直感、直観、理念などのいわゆる感性的認識に関する内容と、論理、合理、理性、知性などの理性的認識に関する内容とを、併せて取り上げた観点である。

上記の観点を、「アイデンティティ」をはぐくむためのねらいを明確にする手だてとして用いることで、具体的な実践の指針が得られると考える。

2 観点と発達段階ごとの「目指す子ども像」の作成

各教科等において、「アイデンティティ」をはぐくむ指導を実践するにあたっては、1に示した観点と発達段階ごとの各教科等の目標との関連を明確にすることで、指導のねらいが定まり、工夫や手だてを講じるための指針となる。そこで本研究では、幼稚園教育要領及び学習指導要領の目標や内容等から、前述の「かかわりと帰属意識の広がりに関する観点」及び「かかわりと帰属意識の広がり」を成立させる要素に関する観点に関連付けられるものを取り出し、発達段階ごとの「目指す子ども像」としてまとめた。

以下、その内容について、例をあげて説明する。

例えば、「自己とのかかわり」では、発達段階ごとに次のような「目指す子ども像」が描ける。

幼稚園段階では、教育要領の自立心やかかわる力を養う「人間関係」のねらいの内容から、次のような幼児像を描くことができる。

- ・ 幼稚園生活を楽しみ、自分の力で行動することに充実感を感じる幼児（以下、文末省略）

小学校段階前期（第1、2学年）では、例えば学習指導要領の道徳の内容「1 主として自分自身に関すること」から次のような児童像が浮かぶ。

- ・ 自分がやらなければならない勉強や仕事は、しっかりと行う

小学校段階中期（第3、4学年）では、同じく学習指導要領の道徳の内容「1 主として自分自身に関すること」から次のような児童像が考えられる。

- ・ 自分でできることや自分でやると決めたことは粘り強く行い、節度ある生活をする

小学校段階後期（第5、6学年）では、同じく学習指導要領の道徳の内容から次のような児童像が描ける。

- ・ 高い目標に向かい希望と勇気をもってくじけず努力する
- ・ 自己の良い面を伸ばす

中学校段階では、やはり道徳の内容から、次のような生徒像が想定できる。

- ・ 真理を愛し真実を求めて理想の実現を目指し、自己の人生を切り拓く
- ・ 自己を見つめ向上を図りながら、個性を伸ばして充実した生き方を求める

高等学校段階では、公民・倫理の目標の中から、次のような生徒像が見出せる。

- ・人格の形成に努め、生きる主体としての自己の確立を目指し、良識ある公民として必要な能力や態度をもつ

このように、発達段階（この場合は主に校種）ごとに教科等の目標や内容を観点にそって「目指す子ども像」としてまとめると、どのようなねらいをもって幼児・児童・生徒を育てることが必要かを一覧することができる。

なお、「アイデンティティ」をはぐくむための「目指す子ども像」は、各学校の実態や幼児・児童・生徒の状況や発達段階に応じて、教科等のねらいと関連させて作成することが必要である。本研究では、それぞれの学校が独自の「目指す子ども像」を描くことができるように、これまで述べたような作成についての考え方を踏まえ、参考資料 観点と発達段階ごとの「目指す子ども像」を示した。（pp.199-200 参照）

3 「アイデンティティ」をはぐくむための授業モデル案の作成と提示

これまで述べた「アイデンティティ」をはぐくむための観点と、発達段階ごとの「目指す子ども像」を踏まえ検証授業を実施し、子どもたちの反応の分析、考察から、改良を加え、下記の授業モデル案を作成した。

作成した授業モデル案（〔 〕内は主な観点とのつながりを示す。）

- ・小3：国語「詩をたのしもう」〔感性・思考〕
- ・小4：社会「ゴミのしまつと再利用」〔社会とのかかわり〕
- ・小6：音楽「自分たちの『ふるさと』を表現しよう」〔自己表現〕
- ・中1：道徳「『まつり』を通して、人とのつながりを大切にする気持ちを育てよう」〔文化とのかかわり〕
- ・中2：特別活動「進路学習 自分を知ろう」〔自己とのかかわり〕

これらの授業モデル案では「アイデンティティ」をはぐくむためのねらい及び具体的な工夫や手だてを明らかにし、期待される成果を提示した。

これらの資料を、各学校において、児童・生徒の実態に合わせ、改善して用いることで、「アイデンティティ」をはぐくむことが期待できる。

共同研究校について

共同研究校である中野区立第三中学校では、校内研究のテーマを「共存・共生への道」と設定し、国際理解教育と人権教育を柱に「アイデンティティ」をはぐくむことを目標に実践を進めている。この実践は、本研究の具体的な展開事例として位置づけている。

4 「アイデンティティ」をはぐくむための授業モデル案について

本研究では、小学校と中学校の複数の教科等で検証授業を実施し、授業モデル案を作成した。その中で、小学校第3学年国語科「詩を楽しもう」を例にとり、検証授業から授業モデル案に至るまでの過程を以下に示す。

(1) 研究主題との関連および単元設定の理由

小学校国語科の目標は、「国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる」と学習指導要領に記されている。本研究では「アイデンティティ」をはぐくむ教育の目指す人間像として、「日本や世界の歴史や文化・伝統を尊重する」と示したが、言語はそれ自体が文化であり、我が国の歴史や文化・伝統などの理解のためには、国語の力をつけることが重要である。このことを受け、小学校第3学年の詩の単元で、児童の言語感覚を養うことを意図した検証授業を行うこととした。

(2) 単元のねらい

本単元では、「情景や気持ちを想像しながら読み味わい、言葉の区切りや表現の仕方などに注意して音読する」ことを学習する。「きりなしうた」「かっぱ」(共に谷川俊太郎作)では、詩の学習に対する関心を高め、言葉の響きや遣い方の面白さを感じさせることを意図した。そして「夕日がせなかをおしてくる」(阪田寛夫作)では、言葉の中に込められた思いを感じ取り、夕日の情景を思い浮かべられるようにしたいと考えた。

これらのことにより、言葉への関心を深め、言葉に対する感性を培うことを本単元のねらいとした。

(3) 主な学習活動(3時間扱い) (内は主な学習活動)

上記のねらいを達成するために、詩を音読し作品の面白さについて考え、詩の情景や気持ちを想像し、グループで相談しながら群読をするなど、3時間の学習活動を計画した。

第1時のねらいは、詩の学習に対して関心を高め、言葉の響きや遣い方の面白さを感じられるようにすることである。作品の面白さを感じられるように、いろいろな方法で音読することにした。また、児童の夕日に対するイメージをはっきりさせるために、絵図で表現することや、自分が住んでいる町の夕日を意識化するために、夕日を見てくる必要があると考えた。

- ・ 「きりなしうた」「かっぱ」をいろいろな読み方で読む。
- ・ 夕日のイメージを絵図で表現する(その1)。

第2時のねらいは、作品に表現された情景や気持ちを、実感をもって想像できるようにすることである。思い浮かべた情景について話し合うポイントを焦点化するために、面白いと思ったところに線を引かせることにした。また、夕日について思い浮かべる情景を、自分の実体験と重ね合わせることができるよう、教師の子ども時代の思い出を話すことを計画した。

- ・ 「夕日がせなかをおしてくる」を読み、面白いと思ったところに線を引く。
- ・ 線を引いたところを中心に、作者の詩のイメージを話し合う。
- ・ 夕日についての教師の思い出を聞く。

第3時のねらいは、作品の内容をより深く読み取り、表現の幅を広げることである。グループで話し合いを行い、群読の仕方を考え、練習したり発表したりすることにした。また、夕日

のイメージの変化を見取るために、もう一度夕日のイメージを絵図で表現させることにした。

- ・ グループごとに「夕日がせなかをおしてくる」の群読の練習をして、発表する。
- ・ 夕日のイメージを絵図で表現する（その2）。

(4) 指導上の工夫や手だて

これらの学習活動において、ねらいを達成するために、次のような指導上の工夫をした。

- <第1時>・ リレー読みなど、様々な読み方を体験できるようにした。その際、手拍子に合わせてリズムよく読めるように工夫した。
 - ・ 自分の町の夕日を意識させるために、地域の遊び場や学校など、児童の生活空間を話題にして、夕日を見てくることを促した。
- <第2時>・ 夕日のイメージが膨らむように、自分が見た情景を具体的に説明するなどの観点を明確に例示し、話し合いへの助言をした。
 - ・ 自分の実体験と重ね合わせて情景を思い浮かべることができるように、子ども時代の遊びや、帰り道に見た夕日の思い出を教師が具体的に語った。
- <第3時>・ 児童がイメージした情景の変化を見取ることができるよう、夕日をイメージした絵図を第3時にも描いた。

(5) 検証授業の考察

「 」は、子どもたちの声やアンケート（授業後31名に実施）の結果等を示している。検証授業後の協議会で出された意見や児童の変容から授業の考察を行った。その結果、前述の単元のねらいは、「アイデンティティ」をはぐくむためのねらいとして有効であったという結論を得た。以下に、工夫と手だてについての考察を示す。

言葉の楽しさを知らせ、言葉への関心を高める工夫について

第1時で扱った「きりなしうた」「かっぱ」の学習では、いろいろな読み方を教えることにより、後に行う群読の仕方の話し合いに生かせるようにした。この二つの教材を扱ったことで分かったことは、次の通りである。

「きりなしうた」「かっぱ」のようにリズム感のある詩は、教材そのもののもつ楽しさもあり、児童にはすぐに受け入れられた。それとともに、リレー読みなどいろいろな読み方で群読したことで、さらに言葉のリズムや響き、遣い方の面白さを実感することができた。

- ・ 「きりなしうた」はきりがないから、「きりなしうた」を作った人はすごい。
- ・ 「きりなしうた」「かっぱ」の楽しさが分かった。（25名）

ほとんど全員の児童がほかの詩も読んでみたいと感想を書いていた。また、詩を読むだけでなく、自分も詩を作りみんなに読んでもらいたいという積極的な考えも多くあった。そのことから、言葉に対する関心の高まりや読書意欲の高まりが感じられた。

- ・ 「かっぱ」の詩がとても面白かったです。「かっぱ」のような楽しい詩をもっといっぱい読みたいなあと思った。（ほかの詩を読みたいと思う。27名）
- ・ 私は、金子みすゞさんの「わたしとことりとすゞと」が好きです。金子みすゞさんの詩も勉強したかったです。詩の勉強をもっとしたいです。

以上の考察から、次のことが明らかになった。

- ・ 言葉のリズムを生かした詩は、親しみがわきやすく、楽しさを実感することができる。
- ・ 言葉の楽しさを知らせることは、言葉への関心を高め、国語を尊重する態度をはぐくむことにつながっていくと考えられる。

発達段階を考慮し、言葉のリズムや響き、遣い方の面白さが伝わる教材を設定することが有効である。言葉の楽しさを知らせる学習活動は、いくつかの形態を組み合わせることで、言葉に対する関心を一層高められると考える。

実感を伴うイメージのもたせ方について

「夕日がせなかをおしてくる」の学習では、詩の様々な技法よりも夕日のイメージをもたせることを重視し、児童の原風景に迫るような展開を目指した。その結果、イメージのもたせ方について以下のことが分かった。

詩に詠み込まれた夕日の情景は児童の日常生活とは異なっているが、自由に意見を述べながら話し合いを進めていくことで、次第に自分のイメージとして思い浮かべることができた。

- ・ 最初はオレンジ色だけだったけど、今度描く夕日は、赤と黒を混ぜ合わせて描こう。
- ・ 今まで夕日を普通に思っていたけど、この詩を読んで、夕日って面白いなと思った。

その際、教師が自分のもつ夕日のイメージを語ったことは、児童の夕日のイメージを膨らませるのに有効であった。

- ・ 「夕日の中、秘密基地づくりから帰るときは、もっと遊びたいなあ、明日も晴れてくれないかなあ、早く基地づくりの続きがしたいなあという気持ちだった。」という教師の話聞きながら、「(自分もやったことが)ある!」「基地は作るけどいつも失敗しちゃうんだよね」など共感的なつぶやきが聞かれ、イメージを膨らませていった様子が伺えた。

また、「夕日がせなかをおしてくる」の学習をきっかけに、もう一度夕日を見てみたいと思う児童が多くいた。また、第3時に描いた絵には、最初に描いた絵にはなかった「遊んでいる自分の姿」や「(自分の)家」が多く描かれていた。詩の学習を通して、無意識だった夕日のイメージが自分の生活の一部として意識化されてきたと言える。

- ・ 雲もオレンジに見えて、夕日の方を見るとまぶしくってとてもきれい。
- ・ 夕日を見たときは、オレンジでうす黄色でした。家からも見えてすごくきれいでした。

夕日に背中を押されながら帰る子どもたちはどんな気持ちなのかを想像したり、太陽に向かって「ぼくらは負けずどなるんだ」という中に込められた気持ちや「あしたのあさねすごすな」にある太陽とぼくらとの関係を想像したりするなど、言葉のもつ意味を話し合うことによって、詩に込められた気持ちや情景をとらえることができた。

気に入った点や工夫した点を友達に告げ、その部分を中心に音読を聞いてもらう活動を取り入れたことで、今まで気付かなかった感じ方や考え方を知ることができた。

以上の考察から、次のような手だてを追加することが有効であると考えた。

- ・ 一人一人が、自分の町から見える夕日のイメージを語り、話し合う時間を十分に設定する。
- ・ 最後に個人のイメージでのまとめの読みの時間を設定する。

情景や気持ちを想像しながら読み味わう活動では、実感をもって想像できるようにするために、自分の実体験と重ね合わせていくような働きかけをしていくことが有効である。そのことによって、自分が住む町の原風景を形成することになり、各自の「アイデンティティ」の形成につながっていくものと期待できる。

上記の考察を基に改善した内容を、授業モデル案1として次ページに示した。また、授業モデル案2～5についても同様に、検証授業を基にして児童・生徒の反応などから、ねらいや具体的な工夫や手だてを見直して、作成したものである。

なお、授業モデル案の中にある記号は、本章 1「アイデンティティ」をはぐくむための観点の設定 で述べた、「かかわりと帰属意識の広がりに関する観点」及び「かかわりと帰属意識の広がり」を成立させる要素に関する観点」の8観点(p.182 参照)との関連を示している。特に関連の強い観点については、太字の記号で示している。

授業モデル案 1	単元名・教材名	
小学校第3学年国語科	詩を楽しもう	「きりなしうた」「かっぱ」(谷川俊太郎) 「夕日がせなかをおしてくる」(阪田寛夫)

1 ねらい

言葉に関する感性を培い、日本文化の理解を深めることによって、日本人としての意識を高める。(3、 4)

詩は、我が国の文化、芸術の理解を促すのに適切な教材の一つである。発達段階に応じて低学年では言葉遊び的な楽しいものを扱い、学年が進むに従って、季節にふさわしい内容や情景がくっきりと思い浮かべられる作品を取り上げて学習していく。3年生ではその両方を考慮し、言葉のリズムや響き、遣い方の面白さを知ることと、言葉の意味を考え、味わうことができることをねらいとして本単元を設定する。「言葉って不思議だな、面白いな、すごいな。」ということを感じ取ることにより、言葉への関心を深め、国語を尊重する態度の育成に結び付ける。

2 工夫や手だて

体験や経験を通して、児童に実感を伴う理解を促す工夫

- ・ 繰り返し音読し、詩のもつリズムを十分に楽しむことができるようにする。
- ・ 実際に夕日を見た時の自分のイメージを大切にし、確かなものにするために、友達や教師のイメージを参考にしながら、絵図に表す活動を取り入れる。(3、 4)

自分の感じ方や考えを交流する場を設け、新たな感じ方や考えに気付く工夫

- ・ 自分もつ夕日のイメージや詩のイメージを友達に伝える活動を取り入れる。(2)
- ・ 詩から感じたことを自由に発表する中で、友達の考え方や感じ方を知り、自分の詩のイメージづくりに役立てる。(3、 2)

体験や経験を振り返り、自分のものとする工夫

- ・ 無意識だった夕日を単元の学習を通して意識化させ、原風景の形成へとつなげていく。(4、 4)

3 期待される成果 ()は検証授業で見られた感想等

「きりなしうた」や「かっぱ」のようにリズムを生かした詩は、親しみがわきやすく、楽しさを実感することができる。言葉の楽しさを知ることにより、言葉への関心を高め、国語を尊重する態度をはぐくむことができる。(『かっぱ』の詩がとても面白かった。『かっぱ』のような楽しい詩をもっといっぱい読みたいなあと考えた。)(3)

自分の実体験と重ね合わせながらイメージを膨らませる活動を取り入れることによって、原風景の形成へとつながっていくことが期待できる。(「雲もオレンジに見えて、夕日の方を見るとまぶしくってとてもきれい。」)(4、 4)

また、日本語を大切にしようという気持ちをはぐくむことにもつながっていく。(3)

教師のもつ夕日のイメージを語ることは、子どもたちの夕日のイメージを膨らませ、原風景の形成に有効である。(検証授業後、夕日の絵に自分の姿や家を描き加えた児童が半数以上いた。)(4、 4)

言葉の意味を話し合うことにより、詩に込められた気持ちや情景をとらえることができる。気に入った点や工夫した点を友達に告げ、その部分を中心に音読を聞いてもらう活動を取り入れることにより、今まで気付かなかった新しい感じ方や考え方を知ることができる。

4 指導計画（3時間扱い）

時	学習活動	・指導上の留意点 評価
1	<p>1. 学習のめあてを知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 楽しく群読をしよう。 </div> <p>2. 「はないちもんめ」を歌いながら、かけあいの仕方を知る。</p> <p>3. 「きりなしうた」をかけあいで読む。 各自で音読し、読み慣れる。 分担を決めて、かけあいで読む。</p> <p>4. 「かっぱ」についていろいろな群読をする。 各自、音読し、読み慣れる。 どこで意味が切れるか考える。 リレー読み、声消し読みをする。 グループで群読の仕方を相談し、練習する。 グループで群読の発表をする。</p> <p>5. 夕日のイメージを絵に表す。</p>	<p>・リズムを感じてタイミングよく読むように促す。</p> <p>・分担の仕方を変えて何度か取り組ませる。</p> <p>・リズムをつかみやすいように手拍子に合わせて読むようにする。</p> <p>日本語のリズムの楽しさを感じながら読んでいる。 (3)</p>
2	<p>1. 「きりなしうた」「かっぱ」を群読する。</p> <p>2. 「サっちゃん」「おなかのへるうた」を聴く。</p> <p>3. 「夕日がせなかをおしてくる」の範読を聞き、学習のめあてを知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 「夕日がせなかをおしてくる」はどんな気持ちが込められているのか考えよう。 </div> <p>各自、声に出して読み、読み慣れる。 読んだ感想を自由に発表する。 「おもしろいな」「変わっているな」と思ったところに線を引く。 線を引いたところを中心に発表し、作者の詩のイメージに迫る話し合いをする。 読み取ったことをもとに、気持ちを込めて各自で音読する。 作者の詩のイメージを基にして、自分の夕日のイメージを確かなものにする。 イメージを基にしてまとめの音読をする。</p>	<p>・「夕日がせなかをおしてくる」の作者に関して解説をする。</p> <p>・技法について発表があった時には、簡単に解説する。</p> <p>・各自の見た夕日のイメージを発表させる。</p> <p>・教師の夕日のイメージも話す。</p> <p>・自分の思いを友達に話してから、音読するように促す。 自分の夕日のイメージを思い浮かべながら、詩を読んでいる。 (3、 4、 4)</p>
3	<p>1. 前時に学習した「夕日がせなかをおしてくる」を各自で読む。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 「夕日がせなかをおしてくる」の発表会をしよう。 </div> <p>2. グループごとに群読の仕方を相談し、練習する。</p> <p>3. グループごとに発表する。</p> <p>4. 各自の夕日のイメージをもう一度絵に表す。</p>	<p>・前時のイメージを大切にしながら取り組むように話す。</p> <p>・読み方を工夫したい言葉について話し合い、声の大きさや速さを考えるよう助言する。</p> <p>・各班のよかったところを具体的に指摘し、ほめる。 夕日のイメージを話し合いに反映させ、群読している。 (3、 4)</p>

授業モデル案 2	単元名・教材名
小学校第 4 学年社会科	ゴミのしまつと再利用

1 ねらい

地域の人々の思いや願いに触れ、自分と地域社会とのかかわりに目を向けることで、地域への帰属意識や貢献意識を高める。 (2)

本単元では、ゴミ処理やリサイクルについて、見学や調査などを通して調べる学習活動を設定している。ゴミ処理やリサイクルが地域の人々の健康な生活を維持、向上することに役立っていることや、資源としての再利用、環境保護の大切さなどについて理解し、地域社会の一員としての自覚をもつようにすることをねらいとする。さらに、外国のゴミ処理の事例を調べたり、地域の人々の思いや願いに触れたりすることで、街の美化やゴミを減らすために自分にできることを考え、実践していくようにする。それらのことを通して、地域を愛し、貢献していくとする態度を育成し、社会集団に参加する態度につなげていくことも意図している。

2 工夫や手だて

児童が地域社会とのかかわりに目を向けていくための工夫

- ・ 地域のために働いている人々の話を聞く機会を設定し、その人々の思いや願いに触れることで、地域を愛する気持ちがもてるようにする。 (2、 2)
- ・ 地域に出て、落ちているゴミや集積所のことを調べるなど、調査活動を多く設定することで、地域の現状を具体的に理解できるようにする。

地域のために自分にできることを計画・実施していくための工夫

- ・ 海外に在住経験のある保護者を教師が取材し、調べる内容を明確にした資料を用意することで、児童が自分のできることを考える際に参考となるようにする。 (2、 3)
- ・ 街の美化やゴミを減らす児童の計画について、清掃事務所の方にアドバイスをいただく。 (2、 2)

3 期待される成果 ()は検証授業で見られた感想等

街をきれいにするために努力をしている人々の思いや願いを考えたり、そういった人々と触れ合う機会をもったりすることで社会とのかかわりが深められ、地域に対する帰属意識や貢献意識を高めることができる。(「街にお世話になっているのだから、ゴミくらいきれいにしたい。」「中学校のところでゴミを掃いている人を見かけた。絶対にポイ捨てはしないぞと思った。」) (2、 2)

自分の生活を振り返り、自分にできることを考えることで、地域清掃やリサイクルなどの実践につなげる。また、教師の働きかけを継続することで、児童の意識も持続する。(「街をきれいにする会に参加した。」「自分の袋を持って買い物に行った。」) (2)

外国でのゴミの始末やリサイクルなどの事例を調べることは、学習に対する関心を高め、自分にできることを計画する際により参考となる。また、このような学習は、今後の異文化理解の学習につながっていくことが期待できる。 (3)

地域の人々の思いや願いに触れ、自分と地域社会とのかかわりに目を向ける学習は、社会科における他の単元でも同様に扱うことが可能である。

4 指導計画 (11 時間扱い)

時	学習活動	・指導上の留意点 評価
1 2	1. 地域に落ちているゴミや集積所調べから気付いたことや驚いたことを発表する。 2. ゴミがどのように集められ、処理されているか予想を立てる。 予想される児童の反応 ・集めた場所ですべてつぶしていると思う ・どこかで燃やされているのじゃないか など 3. 学習問題を設定する。 ゴミのゆくえを調べて話し合おう。	・ゴミ拾いや集積所調べをして、地域のゴミの現状に関心をもてるようにする。 ・児童から出された疑問や感想、学区域の集積所の資料などを整理して、予想が立てやすいようにする。 地域のゴミの現状に関心をもち、既習事項や経験等を基に予想を立てている。
3	1. 調べる内容や方法について検討し、学習計画を立てる。 2. 学習計画に沿って、資料を探す。 ・調べる内容や方法 ・必要と思う資料 など	・多様な方法を吟味して、具体的な調査方法を考えられるよう助言する。 学習する内容や方法について、具体的に計画を立てている。
4 5	1. 学習計画に沿って、調べる。 2. 情報を交換する。 ・ゴミ処理の方法 ・リサイクルの様子 ・働く人の工夫や努力 など	・資料から分かったことを自分の言葉で書いていくよう助言をする。 学習計画を基に、資料を見付けたり内容を読み取ったりしている。
6 7	1. 工場を見学する。 2. 工場の方の話を聞き、まとめる。 ・工場の工夫 ・働く人の思い など	・事前に調べたいことを整理して、見学の目的を明確にもてるようにする。 意欲的に見学や質問をしている。 (2)
8	1. 資料を読み、調べる事例を決める。 2. 外国のゴミ処理やリサイクルを調べる。 3. 友達と情報を交換する。 予想される児童の反応 ・日本と全然違う点や同じ点があった ・ゴミを出さない方法がいろいろあった ・外国のいいところをまねしてみたい など	・海外に在住経験のある保護者に事前に取材をして、調べる内容を明確にした資料を用意する。 外国のゴミ収集等の様子に関心をもち、その特徴や日本との違いに着目しながら意欲的に調べている。 (3)
9	1. 調べたことを発表する。 2. 分かったことをまとめる。 ・ゴミの行方 ・人々の工夫や努力 ・海外の取り組み など	・ゴミの行方を図式化し、見て分かりやすいようにまとめるための助言をする。 ゴミのゆくえやゴミ処理に携わる人々の工夫や努力を理解している。
10	1. 自治会の方の話を聞く。 2. 自分たちにできそうなことを考える。 3. グループに分かれて話し合い、計画を立てる。 予想される児童の反応 ・落ちているゴミを拾い、街をきれいにしたい ・街をきれいにしようみんなに呼びかけたい ・リサイクルに取り組みゴミを減らしたい など	・自治会の方の話を聞き、地域のために働いている方に目を向け、自分たちにできそうなことを考えていくようにする。 地域の方の思いや願いを知り、自分にできそうなことを具体的に考えている。 (2、 2)
11	1. 街の美化やゴミを減らすために、自分にできそうなことを確認する。 2. 小グループに分かれて、自分たちの考えについて話し合う。 話し合う観点 ・自分たちで実行できることは何か ・他の人にも協力してもらうにはどうするか ・いつ、どこで、どのように行うのか ・計画を実行するのに必要なものは何か など アドバイスをいただくポイント ・計画に無理がないかどうか ・安全かどうか ・地域の人に呼びかける方法について など 3. 全体で発表する。 4. 清掃事務所の方に評価を受け、学習のまとめを行う。	・地域の清掃事務所の方と事前に打ち合わせを綿密にしておく。 ・清掃事務所の方に児童が前時に立てた計画について評価をうけ、アドバイザーとして話し合いに参加してもらおう。 ・自分たちの計画が、より具体的なものになるように観点を例示する。 ・自分たちの計画を実行するに当たり、主事や保護者の協力を得ることを伝える。 清掃事務所の方の話も参考にしながら、よりよい計画になるように話し合いに参加している。 (2、 2)

授業モデル案 3	単元名・教材名	
小学校第 6 学年音楽科	自分たちの「ふるさと」を表現しよう	「ふるさと」

1 ねらい

- 自分なりのイメージをもって音楽表現を楽しむことで自己表現力を高める。 (1)
 日本の唱歌の美しさを感じ取り、表現することにより、その文化的価値に気付く。
 (3、 4)

音楽科で大切にしている大きな柱の「聴くこと」と「表現すること」は表裏一体である。これらは「アイデンティティ」をはぐくむことと深い関連をもっている。そこで、日本の音楽にも興味をもち始める 6 年生の段階で、唱歌の美しさや文化的価値に気付きながら、自己表現力を高めていくことができるよう本単元を設定する。「ふるさと」を表現するにあたっては、自分の体験や経験を十分生かして、自分のイメージに合った表現に近づけさせたいと考える。グループ活動では、個々のよさが生かされ、一人ではできない「自分たちの表現」を目指し、友達と共に音楽を表現する楽しさを感じることを大切にしている。

2 工夫や手だて

自己表現力を高めるための工夫

- ・ 自分もったイメージに近い演奏手段を選ぶことで、自己表現を一層楽しむことができるようにする。 (1)
- ・ 歌詞から想像する様子を、自分なりにイメージをふくらませて表現できるよう、幼少の頃の懐かしい思い出など、子どもの経験や発達段階に即した助言をしていく。
- ・ 自分の考えと友達の考えを基に、一緒に表現できる喜びを得られるよう、イメージごとのグループ編成など、効果的にグループ活動を取り入れる。

日本の音楽文化を理解するための工夫

- ・ 日本語の言葉と旋律の美しさを斉唱で味わえるように、朗読するなど、歌詞の理解を十分に深めて歌えるようにする。 (3、 4)
- ・ 世代を越えて、歌い継がれていく教材を通して、普遍的なよさなどを伝えていく。

個が生かされる工夫

- ・ 一人一人が考えた表現を発表し、互いに聴き合い、認め合える場を設ける。 (4)

3 期待される成果 () は検証授業で見られた感想等

一人一人の児童の発達に合った表現方法が準備されることで、音楽を表現する喜びを感じ、さらに音楽表現を豊かにしようとする児童を育てる。 (1、 4)

(「想像したり、思い出したり、考えたりすることが楽しかった。」)

自分で選ぶ、友達の表現を認めるなど、個を大切に活動重視することにより、自己表現への意欲が高まる。(「友だちの演奏がよかった。一緒にできて楽しかった。」) (1)

発展性のある教材により、表現方法の工夫に広がりや深まりがみられる。(「歌いながら自分のふるさとを想像できた。」「強弱や速さを工夫しながら感じを出した。」) (3)

年代を超えた価値を感じる教材に触れることにより、家族との共感が生まれ、日本の音楽文化に対する理解が深まる。(「昔からあるなんてこの詩はすごいな。」) (2、 3)

自己表現をする楽しさや日本の音楽のよさを感じることができる関連教材を、小学校から中学校へと系統的に、年間を通して扱うことで、さらにその効果が高まることが期待できる。

4 指導計画（6時間扱い）

時	学習活動	・指導上の留意点 評価
1	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">歌 曲 「 ふ る さ と 」 の 美 し さ を 感 じ 取 る う 。</p> <p>1. 「ふるさと」の旋律を味わう。 歌詞の意味をとらえ、情景を想像する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歌詞の理解と同時に自分にとっての「ふるさと」を想像しながら歌うよう助言する。 ・ 日本語の美しさや旋律の美しさに気付くようにする。 <p>「ふるさと」の歌詞や旋律のよさを感じ取って歌っている。 (4)</p>
2	<p>2. 合唱する。 副旋律を練習する。 パートを自分で選び、心をこめて歌う。</p>	
3	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">自 分 た ち の 「 ふ る さ と 」 を 表 現 し よ う 。</p> <p>1. 自分なりの「ふるさと」のイメージをもつ。 思い描いたことを言葉で表現し、互いの考えを認め合う。 演奏してみたい表現形態を考える。 グループを作り互いのアイデアを生かしながら表現方法を相談する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分がもったイメージをどのように表現するか考えさせる。(例・自然が美しい様子、懐かしい気持ちなど) ・ 教師の経験やイメージを語る。 ・ 板書で整理するなど、自分たちがもったイメージごとのグループ作りに協力する。
4	<p>練習の様子</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>のどかな自然グループ(トーンチャイム、ハンドベル、バスなど).....準備室 なつかしい友達グループ(部分二部合唱、リコーダーなど).....第2音楽室 楽しかった思い出グループ(シンセサイザー、鉄琴など).....第1音楽室 うれしい思い出グループ(オルガン、シンセサイザーなど).....第1音楽室</p> </div>	
5	<p>2. 自分たちのイメージをもってグループごとに練習をする。 グループごとにイメージした「ふるさと」を説明できるようにする。 イメージに合った演奏方法を工夫する。</p> <p>3. 中間発表をする。 グループごとの演奏を聴き合う。 他のグループの活動を参考にさらに表現を豊かにする。</p> <p>4. 次時への課題をもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 練習場所の指示をし、各グループを回り助言する。 ・ 互いの音楽表現をよく聴き合うよう助言する。 ・ 様々な表現方法が可能になるよう実際の演奏で見本を示す。 ・ 必要に応じて全体指導を挿入する。 <p>各グループの演奏をよく聴き合っている。 (4)</p> <p>自分のよさを堂々と発表し、さらに音楽を豊かにしようとしている。 (1、 4)</p>

6	<p data-bbox="272 163 1414 226">ミニ発表会をしよう。</p> <p data-bbox="220 253 847 331">1. ミニ発表会を開き、互いの音楽を聴き合い楽しむ。</p>	<p data-bbox="879 253 1445 331">・ 互いの演奏のよさを認め合う大切さを助言する。</p> <p data-bbox="911 342 1445 421">自分なりのイメージに基づいて表現された音楽の素晴らしさを感じ取っている。</p> <p data-bbox="1254 432 1437 470">(1、 4)</p>
---	--	---

授業モデル案 4	単元名・教材名
中学校第 1 学年道徳	「まつり」を通して人とのつながりを大切に作る気持ちを育てよう

1 ねらい

地域の「まつり」を通して「まつり」がもつ人と人をつなげる働きに気づき、社会への参加意識や貢献意識を育て、自らの態度や行動の在り方を考える。 (2、 3)

地域の「まつり」を題材に取り上げることは、社会連帯や社会貢献の意義を知ること、地域への帰属意識を高めることなど、社会とのかかわりを自覚することにつながる。それは、「まつり」がもつ人と人をつなげる働きが、地域づくりに大きな力を発揮しているからである。「まつり」のもつ働きに目を向けた学習は、社会とのかかわりについて生徒が改めて自覚することにつながる。また、地域の人々の気持ちや考えを手がかりにすることは、「まつり」のもつ働きを知るのに役立つものとする。さらに、生徒の「まつり」に対する意識や経験を取り上げることにより、希薄になりがちな生徒と地域との関係も浮き彫りにすることができる。

この授業では、自らの態度や行動の在り方について考えを深め、様々な活動に主体的にかかわることの意義を理解することを目指している。この学習では、学校行事や地域行事、さらに国際的な活動など他の「まつり」にも、生徒の主体性が波及していくことをねらいにしている。

2 工夫や手だて

地域の「まつり」について理解を深め、地域への帰属意識を高めるための工夫

- ・ 地域の「まつり」について資料を集め、生徒に詳しい情報を提供する。 (3)
- ・ アンケートから「まつり」に対する生徒の意識を取り上げ、学習に取り組みさせる。(2)

人と人をつなげる働きに気づき、社会連帯や社会貢献の意義を知るための工夫

- ・ 地域や他の「まつり」の関係者が表した気持ちや考えを紹介する。 (2)
- ・ 「まつり」を続けるために必要なことは何かについて、考える機会を用意する。(2)

相互に関係を深めながら、自らの態度や行動の在り方を考えるための工夫

- ・ 多くの生徒と意見交換ができるように、自由に交流する場面を設定する。 (2)
- ・ 各自の考えを短冊に記入し、掲示後に整理をして、全体で話し合わせる。 (4)

「まつり」のもつ働きを理解し、自らの考えを深めることを助けるための工夫

- ・ プレゼンテーションソフトとプロジェクターを利用し、授業の流れや資料を提示する。

3 期待される成果 ()は検証授業で見られた感想等

地域の「まつり」の姿をつかみ、「まつり」のもつ人と人をつなげる働きに気づき、地域が多くの人に支えられていることを理解する。(「まつりは楽しむだけでなく、人と人とのつながり、わかりあうためのイベントなんだなあと思いました。」「どのまつりもその地域の人たちの協力でやっていることがわかった。）」 (2、 3)

「まつり」に対する興味・関心が高まり、地域や学校の活動などに自分自身が関わることの意義を理解し、参加意識、貢献意識の高まりをみることが出来る。(「まつりはただ食べてボーっとしているだけでしたが、皆が努力しているからこそ続いていることがわかった。これからは、自分のできることは進んで手伝いたいと思います。）」 (2)

「まつり」の学習が発展し、日本と他国との間にある文化の関連性や普遍性、社会の一員としての意識の共通性などに気付いていく機会になる。

4 指導計画（2時間扱い）

時	学習活動	・指導上の留意点 評価
1	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">「まつり」のもつ働きを知り、「まつり」を続けていく理由を考えよう。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自分と身近な「まつり」との関係を確かめるために、事前アンケートの結果を知り、本時の授業課題をつかむ。 2. 様々な「まつり」を知り、地域の「まつり」の内容を確認する。 3. 地域の「まつり」について考える。 <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">地域の「まつり」を、これからも長く続けていくためには、何が必要か。(だれが何をしたらいいか。)</p> <ol style="list-style-type: none"> 4. 地域の人のお話が分かる資料文や出張所にある資料を読み、テーマを考える手がかりとする。 5. 地域の「まつり」が続いてきた理由について考え、自分の意見を短冊型の紙に書く。 6. 互いの意見を知るために、自分の用紙を持って移動し、他の生徒と意見交換をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事前アンケートで生徒の「まつり」に対する意識をつかむ。 ・ 質問に応じて、事前アンケートの結果を示し、問題提起をする。 ・ 地域の「まつり」について、生徒の経験や知識を活用し、教師側の提示資料に位置づけて確認する。 ・ 身近な「まつり」を考える材料として、思い起こしている。 (2) ・ 班の中で意見交換の時間を用意する。自分の考えを整理し、見やすくまとめている。 (1) ・ 教室を移動し、たくさんの生徒の意見を聞いてくることを指示する。積極的に他の生徒と交流し、自分の考えを伝えるとともに、相手の意見をしっかり受け止めている。 (2)
2	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">「まつり」を通して自分の態度や行動の在り方考えよう。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 第1時で記入した短冊型の紙を使い、人々の「まつり」に対する願いや人と人をつなげていく働きに気が付いていくように、短冊の内容を分類、整理して話し合う。 2. 全体で話し合いながら、地域や行政などの「まつり」に対する願いを考える。 3. 地域の「まつり」のねらいや願いは、他の様々な「まつり」とも共通し、人と人をつなげる働きに普遍的な特徴があることを理解する。 4. 地域の「まつり」を参考にして、これからの「まつり」に対する自分の考えや態度を整理する。 <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">これからのあなたは、どんな気持ちで、どんな形で「まつり」に参加していきますか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 代表生徒の意見を発表し、学級全体で「まつり」や地域の活動に対する心構えを確かめ合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 代表的な生徒の意見を例にして、全員の意見の分類の観点にする。(分類例：行政の力、地域の力、学校の力、その他など) ・ 壁に貼った短冊型の紙を貼り直ししながら、意見を分類、整理する。 ・ 意見交換をしながら「まつり」のはたらきについての考えを深めている。(3) ・ 「まつり」の関係者の気持ちや考えを示す資料を提示し、「まつり」がもつ人と人をつなげていく働きが、社会への参加や社会貢献につながることを確認する。 ・ ワークシートに書くように指示する。 <p style="margin-top: 20px;">今後の「まつり」に対する態度や行動について、自分の考えをしっかりと表している。(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「まつり」だけでなく、学校行事や地域の活動について、参加意識や貢献意識を促す。

授業モデル案 5	単元名・教材名
中学校第 2 学年特別活動	進路学習 自分を知らう

1 ねらい

自分を見つめ直すとともに、将来の自分の生き方を考え、自己実現に対する意識を高める。
(1)

本単元は、自分を深く見つめ直すことを通して、今まで気付かなかった自分について知り、自分の姿を把握するとともに、将来の生き方や自己実現に対する意識を高めることをねらいとする。自分を知るためには、様々な視点や方法があることを学びながら、現在の自分の姿について深く考える活動を行い、自分を理解し、受け入れる態度を育てる。また、将来における自分の生き方について考えるとともに、他の生徒との意見交換を通して様々な考えがあることを認め合う。さらに多くの考えを基に、再び自分の生き方について深く考え、自己意識や自己実現に対する意識を高めていくことを目指す。

2 工夫や手だて

自分に目を向けさせ、深く考えさせることで、自己認識を促す工夫

- ・ 自分を知るためには、どのような視点や方法があるのか、具体的に考えさせる。
- ・ 人の様々な良さに関するワークシートを基に、自分について深く考えさせることにより、自分の特性を把握させるとともに、自分から見た自分の姿をまとめるように促す。
- ・ 時間をかけて自分と向き合わせることで、その良さに気づき、自分を受け入れる気持ちをもてるように助言する。 (1)
- ・ 家の人に自分の姿を書いてもらい、他者から見た自分について考えさせる。 (1、 2)

将来の生き方について考えさせることで、自己実現に対する意識を促すための工夫

- ・ 職業の選択や生き方に対する様々な考えや思いに関して、教師自身の例を語ることを通して、生き方に対するイメージを膨らませるよう促す。
- ・ 将来の自分の生き方について、項目を示したワークシートを使って深く考えさせ、自分の生き方についての意識を高める。 (1、 2)
- ・ 生き方についての意見交換を通して、様々な考えがあることを理解し、それらを尊重するとともに、改めて自分の生き方について深く考えさせるようにする。 (1、 2)

3 期待される成果 ()は検証授業で見られた感想等

自分について深く考え、その特性を把握することは、自分を受け入れる態度を育てるとともに、将来に向かって自己を伸ばしていこうとする意識を高めることにつながる。(「自分についてよく知ることができた。」「将来の職業を選ぶ上でも、自分を知ることの大切さを感じた。」「自分を知ることで自分を良くすることができる。」) (1)

家の人から見た自分の姿を知ることにより、自分の気がつかない自己の姿に気付くとともに、家の人への自分に対する思いを理解することができる。(「新しく自分を知ることができた。」「自分を温かく見ていてくれると思った。」) (1、 2)

生き方についての意見交換を行うことにより、様々な考え方があることを理解するとともに、自分の考えを整理し、自分の生き方を再認識する機会になる。(「多くの意見が参考になった。」「自分の生き方に対する考えをもつことができた。」) (1、 2)

自分を知る方法について学ぶことは、これからの進路選択や生き方を考える上で役立つ。

4 指導計画（2時間扱い）

時	学習活動	・指導上の留意点 評価
1	<p>1. 学習のめあてを知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 自分を見つめ、自分について考えよう。 </div> <p>自分を知る必要性を考える。</p> <p>2. 自分を知る方法を考える。</p> <p>3. 人の様々な良い面に関する項目が書かれたワークシートを使い、自分を見つめ直し、自分の特性を把握する。</p> <p>4. 様々な観点をもとに、自分について文章で表現する。</p> <p>5. 家の人に自分についての作文を見せ、家の人から見た自分の良い面を書いてもらう。</p>	<p>・ 自分を知ることの大切さを、職場体験の感想文から気付くように促す。</p> <p>・ 自分を知る方法や観点について、生徒に発問を投げかけながら、意見をまとめる。</p> <p>・ ワークシートに書かれた項目を基に、自分についてじっくり考えてみるように促す。</p> <p>・ 今までの自分を振り返り、広い視野から自分をとらえ、文章で表現するように促す。</p> <p>自分を深く見つめ直すことにより、自分の特性を理解する。 (1)</p>
2	<p>1. 家の人を書いた文を基に、家の人から見た自分の姿についてふれる。</p> <p>2. 本時の授業内容を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 自分の生き方について考える。 </div> <p>3. 生き方の例として、職業選択や生き方に関する教師の体験談や考えを聞く。</p> <p>4. 様々な生き方を示したワークシートを使い、生き方について考える。生き方を示した項目の中から、自分が目指す生き方を選び、順位をつける。</p> <p>5. 生き方についての自分の考えを班内で発表し、意見を述べ合う。</p> <p>6. 他の人の意見にふれながら、自分の生き方について考えを深める。</p>	<p>・ 家の人から見た自分の姿を考えることを通して自分が知らない自分の姿に気付くようにする。また、家の中の自分への思いを知るようにする。</p> <p>・ 他の人から見た自分の姿も、自分を知る手がかりになることに気付くようにする。</p> <p>・ 本時の活動の流れを説明する。</p> <p>・ 職業の選択や生き方についての具体的なイメージをもつように促す。</p> <p>・ 教師の話をもとに、自分の将来の生き方に対するイメージを膨らませるようにする。</p> <p>・ 今までの進路学習や経験、また、将来就きたいと考えている職業などに思いを巡らせながら、将来の自分の生き方について、様々な場面を想像しながら考えるように促す。</p> <p>・ 話し合いや意見交換を通して、様々な考えを聞くことは、自分を知ることや生き方を考える上で、大切であることに気付くようにする。</p> <p>将来の自分の生き方について、時間をかけて深く考える。 (1、 1)</p>

研究の成果と課題

1 研究の成果

本研究は「アイデンティティ」をはぐくむ上で、授業に即した工夫や手だてを提示することにより、学校の実践に資することを目指してきた。

今年度の研究では、次のことを成果とすることができる。

(1) 「アイデンティティ」をはぐくむための観点の設定

検証授業と学習指導要領等の目標や内容の分析から、「アイデンティティ」をはぐくむための8観点を設定した。これにより、指導の目標やねらいをより明確にすることができた。

(2) 発達段階ごとの「目指す子ども像」の提示

検証授業と学習指導要領等の分析を通して、児童・生徒の発達段階ごとの「目指す子ども像」を示すことができた。

(3) 各学校の実践に資する授業モデル案の提供

教科を超えた目標である「アイデンティティ」の醸成を促すために、目標やねらい、工夫や手だてについて、実施した検証授業を分析・検討し、複数の教科等の授業モデル案として具体化し、提示した。

(4) 共同研究校との連携

共同研究校である中野区立第三中学校と連携し、国際理解教育や人権教育に視点をあてた中学校での「アイデンティティ」をはぐくむ教育を推進するための実践を進めた。

2 今後の課題

「アイデンティティ」は長い期間をかけてはぐくまれるため、短時間の限定された教科等の指導だけでは十分ではない。「アイデンティティ」を児童・生徒に効果的にはぐくむためには、意図的な方策の基に、日常の教育活動のあらゆる機会を活用し、様々な工夫や手だてを講じた働きかけを継続的に積み重ねていくことが必要である。このことを、本研究を通して改めて認識した。

そこで、今後の課題として以下のことが挙げられる。

授業実践の積み重ねを通し、教科を超えた「アイデンティティ」をはぐくむための方策を探り、小学校、中学校、高等学校を通して継続する具体的なカリキュラムの開発を行うこと。

本研究の授業モデル案を発展させて、各教科等の特性を生かした具体的な「工夫や手だて」の開発をさらに進め、実践事例を蓄積していくこと。